

『水害から命を守るプログラム』とは

大震災を契機に、ハード・ソフトの施策を組み合わせた「多重防御」の考え方が注目されています。しかし、堤防などの“ハード整備”と異なり、ハザードマップをはじめとする“ソフト対策”は、正しく理解され、適切な行動（備える・逃げる）に結びつけなければ、全く効果がありません。

このプログラムは、防災に関する情報を、効果的に県民のみなさまへ届けるために始めたものです。「自助・共助」の力を掘り起こし、「公助」と一つになることで、災害から大切な「命」を守り抜きましょう。

プログラムの施策内容（一例）

① 水害について知るきっかけを与える取組



チラシ【配布中】



広報紙（予定）



パネル展



② 水害や洪水ハザードマップを学び、災害時の自発的な行動を促す取組



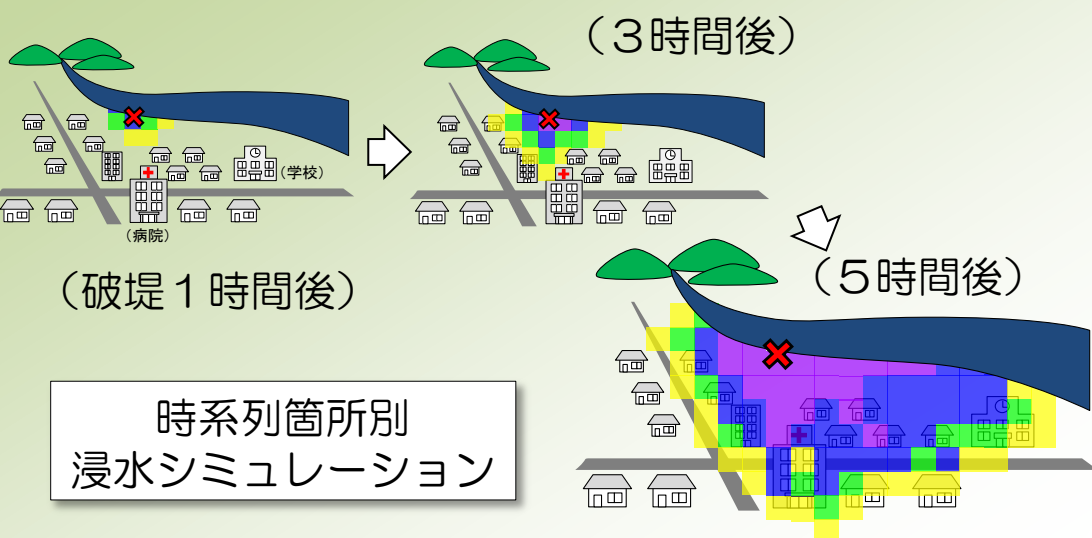
パンフレット【配布中】
と出前講座・学習支援



シンポジウム・講演会



③ 水害に対する新たな備えを構築する取組



④ 洪水ハザードマップを効果的に作成・更新するための取組

洪水ハザードマップ更新
チェックポイント（予定）

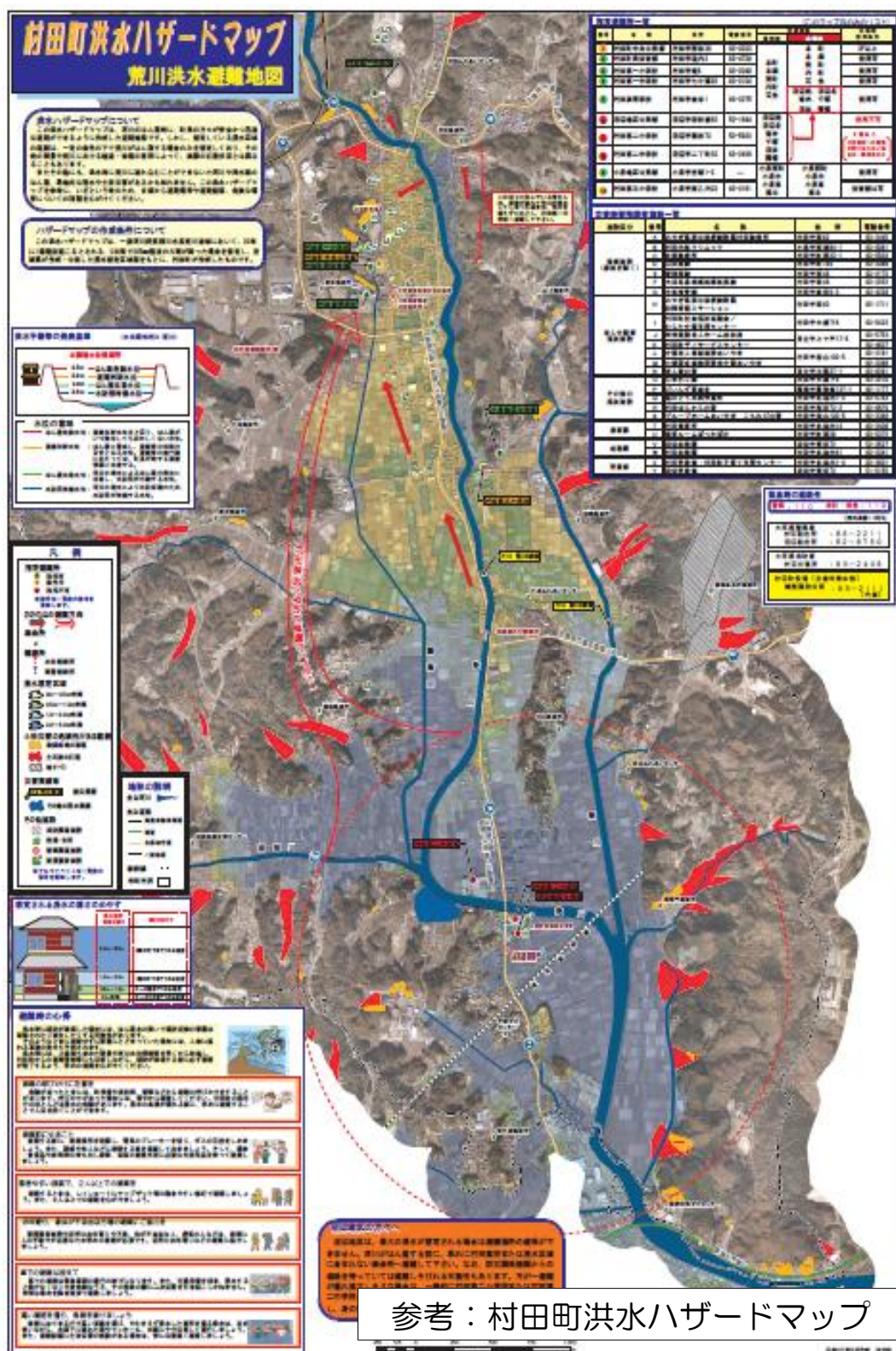


防災かわら版

知っていますか？ハザードマップ！！

ハザードマップには、お住まいの地域の災害情報と、避難方法に関する情報が記載されているもので、お住まいの市町村が作成しています。

洪水ハザードマップには何が書いてあるの？



◆ 浸水想定区域と浸水深さ

河川がはん濫した場合に予想される浸水範囲と深さが色分けされています。

◆ 河川のはん濫特性

特に早い避難が必要な地区や、はん濫の広がり方が記載されています。

◆ 気象情報のありか

防災関係情報の入手先が記載されています。

◆ 避難場所

指定避難所の一覧と、対象地区、水害時の使用可否等が記載されています。

◆ 避難時の危険箇所

大雨時に土砂崩れの危険区域や、冠水する道路、危険な水路等が表示されています。

◆ 避難情報の伝達方法

河川の水位情報や避難情報の伝達経路と手段等が記載されています。

◆ 災害学習情報

過去に堤防が決壊した箇所や、水害に備えた心構え等が記載されています。

※ ここに記載した内容は一例です。お住まいの市町村によって、記載は異なります。

ハザードマップの効果的な使い方

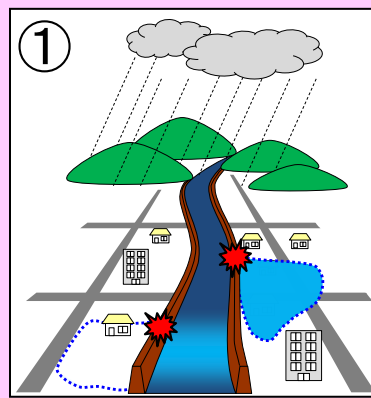
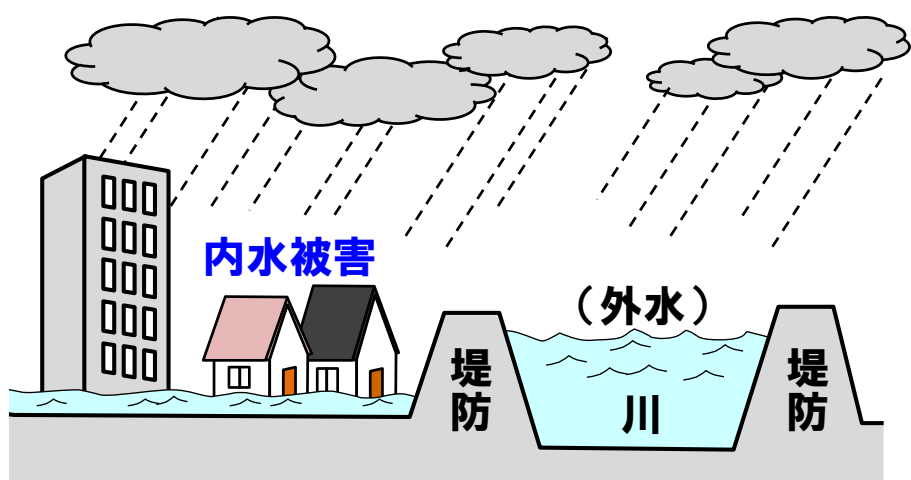
ハザードマップは、災害が起きてから見ても、間に合いません。

普段から、災害時の避難場所や安全な経路を、ご家族で確認することが大切です。
ハザードマップを見ながら、一度ご家族で、避難所まで歩いてみませんか？

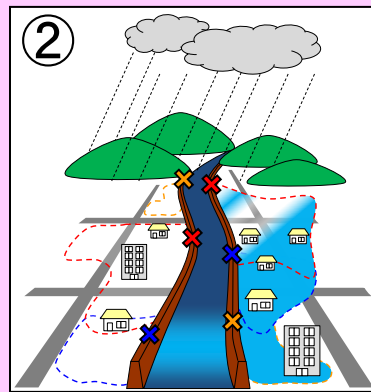
浸水想定区域図の見方と注意点

洪水ハザードマップに記載されている浸水深さは、川が増水し、堤防が決壊した場合の浸水の深さと範囲を示したものです。

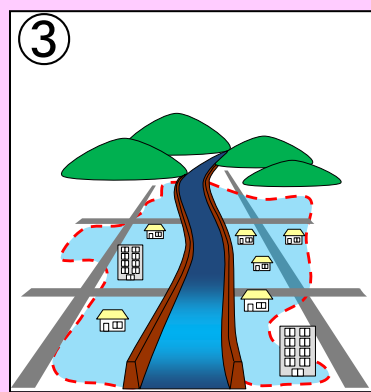
浸水想定区域図の作成方法は右図のとおりです。仮に堤防が決壊したとしても、全ての範囲で浸水する訳ではありませんが、**想定よりもずっと強い雨が降ってしまうと、着色されていない箇所も浸水してしまう可能性もあります。**



大雨で河川が増水すると、最悪の場合として、堤防が決壊し、決壊箇所を中心として浸水被害が発生することがあります。



河川計画の目標とする規模の大雨で起こる洪水に対して、決壊や越水による浸水範囲を、堤防の至る所を対象として、決壊箇所毎にシミュレーションします。



②で作成した箇所毎の浸水範囲を全て重ね合わせて、浸水する可能性がある区域を表示したものが浸水想定区域図です。

浸水深さは、もっとも深いものを表示しています。

浸水想定区域図の作り方

お住まいの場所が浸水範囲の外であっても、油断してはいけません。

最近頻発している「ゲリラ豪雨」のように、水路や側溝、下水道の排水能力を超える強い雨が降ると、**河川にまだ余裕があるにもかかわらず、土地の低いところから浸水被害が発生する場合があります。**（これを内水被害と呼びます）

浸水深さの目安と、洪水流の危険性を知ろう

想定される浸水深さが大きい地区にお住まいの場合は、いち早く避難することが必要です。また、洪水は必ずしもジワジワと水位が上昇するとは限らず、**堤防が決壊した場合には、津波のような勢いで、家屋が破壊されることがあります。**



平成21年台風9号による被災（兵庫県佐用町）

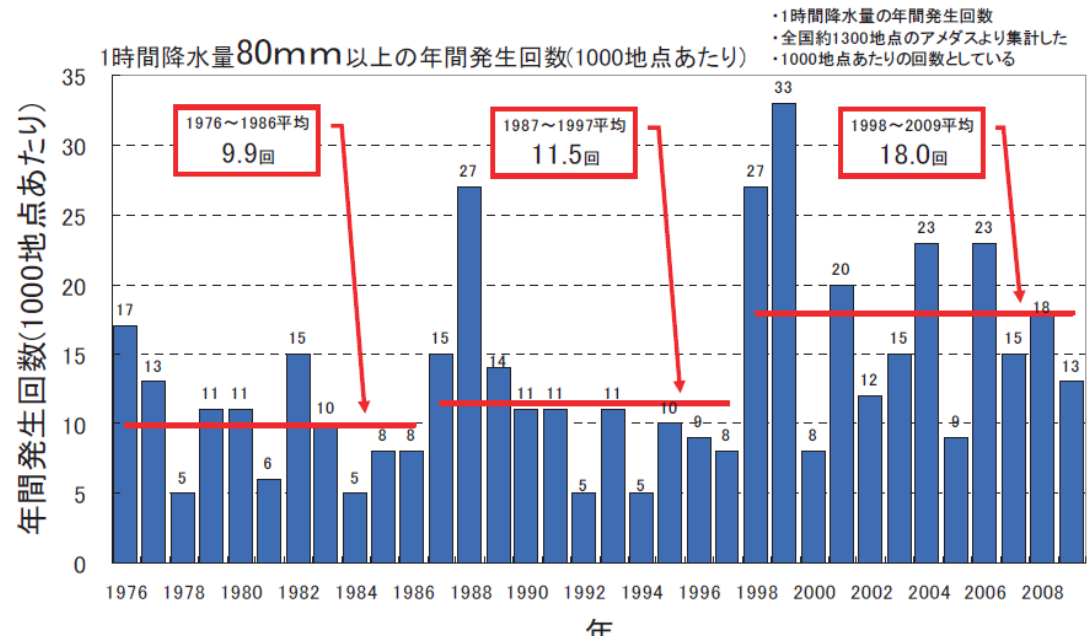
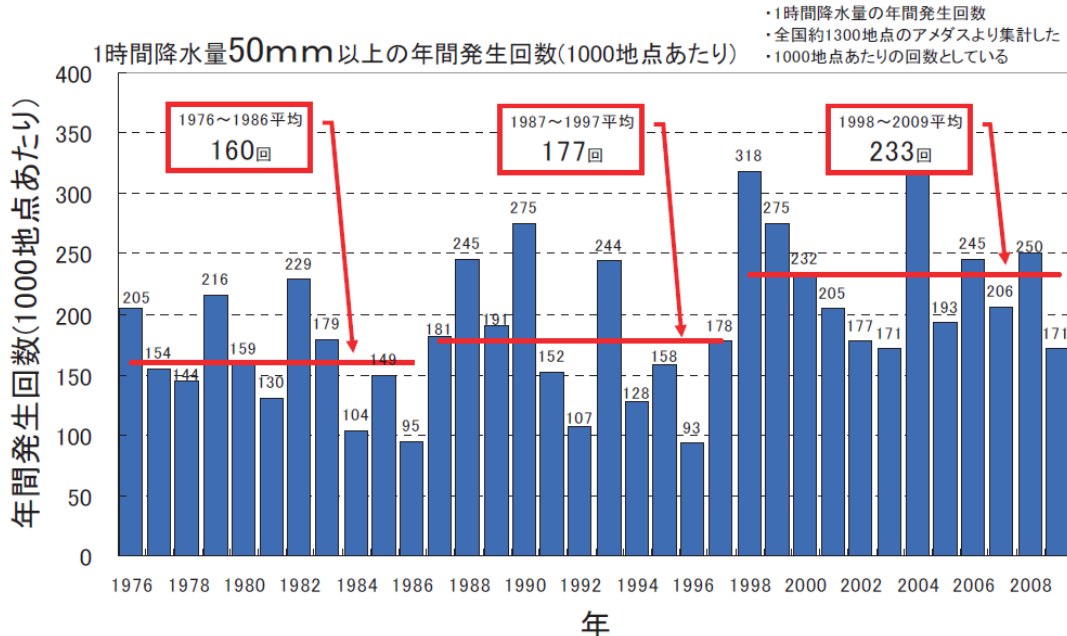
浸水想定区域の深さ	深さの目安
2.0m~5.0m	2階の軒下までつかる程度
1.0m~2.0m	1階の軒下までつかる程度
0.5m~1.0m	大人の腰までつかる程度
0.5m未満	大人のヒザまでつかる程度

浸水想定区域の深さの目安

予想される浸水深さが50cm未満であっても、決して安心してはいけません。流れがある場合、歩いての避難はとても困難になる上、**水中の障害物や穴などは見えにくいので、とても危険なのです。**

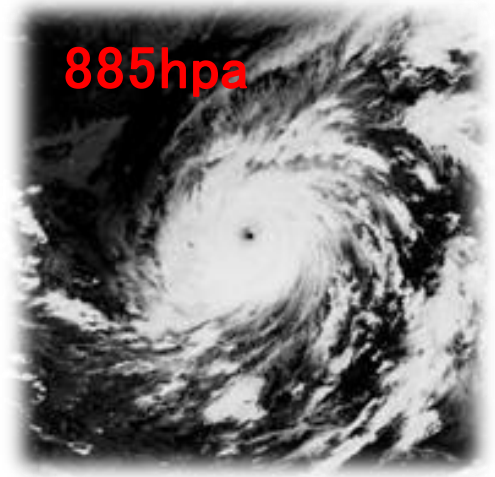
雨の降り方が、いままでとは変わってきた

近年、ゲリラ豪雨と呼ばれる集中豪雨が増加しており、日本各地で毎年のように大きな被害が発生しています。時間50mm以上、80mm以上といった強い雨が降る頻度が、ここ30年間で高まりつつあります。



アメダス地点で1時間降雨量が50mmおよび80mm以上となった年間の回数 (平成21年度 国土交通白書)

地球温暖化により、台風も強大化すると言われていています。平成22年の台風13号は、19年ぶりに中心気圧が900hpaを下回りました。また、台風の発生場所が、昔よりも北上し、日本近海で発生するようになるという研究もあります。



平成22年台風13号 (気象庁)

河川や雨の情報を知るには

宮城県河川流域情報システム(MIRAI)

県では、県内の河川の水位や降水量、ダム等の情報をインターネットで提供しており、パソコンや携帯電話でご覧いただけます。

【パソコン】 <http://www.dobokusougou.pref.miyagi.jp/>
 【携帯電話】 <http://www.dobokusougou.pref.miyagi.jp/tel/>

データ放送 (地デジ)

地デジ対応のテレビをお持ちであれば、リモコンの「d」ボタンを押すことで、お住まいの地域の気象情報や注意報・警報など、防災情報を手軽に入手することができます。

(※画面はNHKの例)

災害は防ぎきれないもの ～自助・共助の大切さ～

災害の規模が大きくなればなるほど、行政が対応できること（公助）は限られてきます。このような時にあなたの命を守るのは、あなた以外にいません。普段から災害に関心を持ち、災害に備えることで、自分と家族の命を守ること（自助）ができるのです。



また、行政の支援が届くまでは、地域で助けあって行動すること（共助）で、安全で安心な避難ができます。県内では多くの地域で自主防災組織が結成され、地域で災害に備えています。いち早く危険を察知し、自らが、みんなで協力して、行動を開始することが重要です。

避難準備・避難勧告・避難指示

災害時に、市町村長が「避難準備」や「避難勧告」、「避難指示」を発令する場合があります。これらの違いを理解し、自らの判断で早めに避難しましょう。

避難準備	避難に時間を要する人や、危険が大きい場所に住んでいる人が避難を開始しなければならない段階
避難勧告	全ての人々が避難を開始しなければならない段階
避難指示	人的被害の発生する危険性が非常に高いと判断された段階 (強制的に避難)

洪水避難時の心得

①早めの避難

身の危険を感じたら、指示を待たずに自主的に避難を開始しましょう。

②避難場所とルートの確認

避難時には家族が離ればなれになるかもしれません。あらかじめ避難場所とルートを確認しておきましょう。

③避難時に注意すること

安全な服装で避難しましょう。腰まで水につかるようなら避難は危険です。自宅や近くの建物の2階以上に避難することも考えましょう。

④地域での協力

高齢者や身体の不自由な方など、避難に時間を要する人を早めに避難させるなど、地域で協力しましょう。